

1 私たちの鹿児島県について知ろう!

-1 どんな特徴があるのかな?



私たちの住む鹿児島県は、毎年多くの土砂災害が起こっています。それは、なぜでしょう？
まず、私たちの住む鹿児島県の特徴について学習してみましょう。

鹿児島ってどんなところ?

概要

- ・位置：日本本土の最南端
- ・総面積：9,186平方キロメートル(全国第10位)
- ・構成：薩摩半島、大隅半島の二つの半島と活火山のある諏訪之瀬島や世界遺産の奄美大島、徳之島、屋久島などの特色ある多くの島々からなります

地域特性

①雨が多い地域

一年を通して雨が多く、
年平均降水量は2,500ミリメートル近くになります。
(平成元年～令和7年)

②強い雨が降りやすい

鹿児島県は、梅雨前線が停滞しやすい、
台風の通り道であるため、6月～9月にかけて、
強い雨が、集中して降り続きます。

③山や丘陵が多く、平地が少ない

鹿児島県は、小さな山がとても多く平野が狭いため、山やがけの
すぐ近くにも家が建てられてきました。



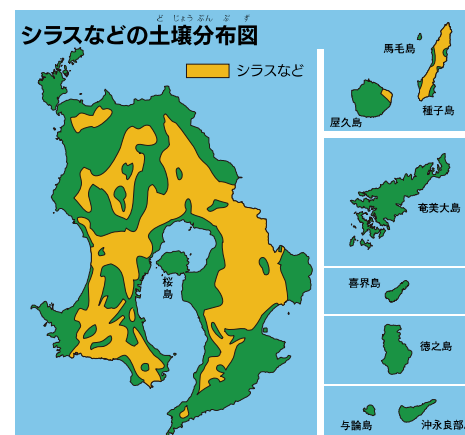
ザザ〜ツ

ゴゴ〜ツ

ザザ〜ツ

④火山が作った崩れやすいシラス台地

鹿児島県の本島の半分以上は、大昔の火山噴火活動で積もったシラスなどで広くおおわれています。
シラスなどは、水を含むと崩れやすい性質を持っています。



※シラスなどが分布していない場所でも、さまざまな条件により、土砂災害が起きています。

⑤桜島などの活火山が多い

鹿児島県は、桜島を代表として、霧島山、
開聞岳など、11の活火山があり、
日本有数の火山地域です。
火山噴火にともなって地震も
起きます。



噴火で地表に
火山灰が積もると、
水が通りにくくなり、
土石流が起こりやすくなるんじや!



特に、桜島は噴火活動が活発で、噴火したときは、
噴石や火山灰が飛んできます。また、火砕流が発生
することもあります。



鹿児島県は、雨が多く崩れやすい
シラスなどでおおわれているた
め、特に土砂災害が起きやすい
地域なんじや。

1 私たちの鹿児島県について知ろう!

-2 統計データを見てみよう



地域の特性から私たちの住む鹿児島県が土砂災害を受けやすいことがわかりましたか？
では、実際にどのくらいの土砂災害が起きているのでしょうか？
他の地域と比べてみましょう。

土砂災害は鹿児島県に多い!!



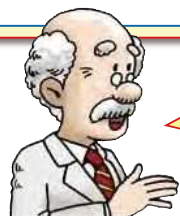
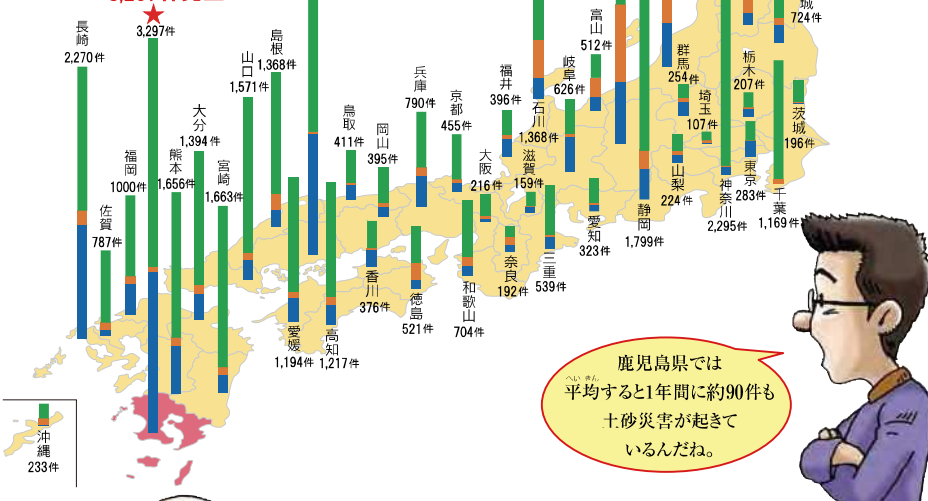
このグラフは、過去37年間の土砂災害の発生した数です。
鹿児島県の土砂災害発生件数は、全国で1位です。

都道府県別土砂災害発生件数

(平成元年～令和7年)

※雲仙普賢岳噴火災害(平成3年～平成7年)による災害発生件数を除く。

鹿児島 (全国1位)
3,297件発生



鹿児島では、今までに人の命を奪う災害が何回も起きているんじゃない。平成5年の災害では、土砂災害によって105人もの尊い命が奪われたんじゃないよ。



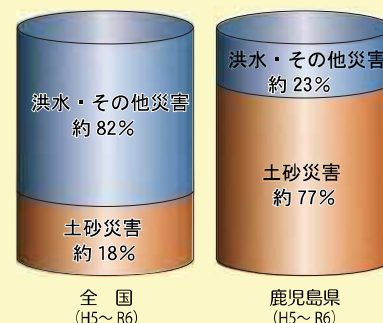
鹿児島県は土砂災害の被害が多い!!



このグラフは、犠牲者がでた自然災害のなかで、土砂災害がどのくらいあるかを調べたものです。

鹿児島県では、土砂災害による犠牲者の割合がとても高いことがわかります。

◆犠牲者がでた自然災害の中で土砂災害が占める割合



鹿児島県では、洪水、地震、津波などの自然災害の中で、土砂災害の被害が一番多いんだって。



土砂災害の犠牲者は、高齢者(65歳以上)や乳幼児(5歳以下)が多い!!

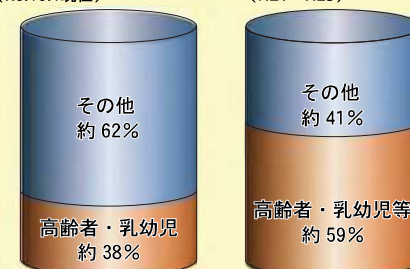


このグラフは、土砂災害による犠牲者の中で、高齢者や乳幼児等がどのくらい含まれているかを調べたものです。
人の力を借りなければ避難できない高齢者や乳幼児等の割合が、高くなっていることがわかります。

※乳幼児等：障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者

鹿児島県における人口年齢構成 (R6.10.1現在)

土砂災害被害者のうち高齢者・乳幼児等の割合 (H21～H25)



私たちのまちに多い土砂災害。土砂災害とは何か、さらにくわしく見てみましょう。

はくたちの住む鹿児島県って、本当に土砂災害が多いんだね！もう自分と関係ないとは言ってられないな！

